

●科目別特徴

①職務の理解

研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」などの実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもって実感し、以降の研修に実践的に取り組めるように展開する

②介護における尊厳の保持・自立支援

介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。

③介護の基本

介護職に求められる専門性と商業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解できる。

介護職を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活支えるという視点から支援を捉えることができるよう展開する。

④介護・福祉サービスの理解と医療の連携

介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントが列挙できるよう展開する。

⑤介護におけるコミュニケーション技術

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なること、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを把握し、初任者として最低限の取るべき（とるべきでない）行動例を理解する。

⑥老化の理解

加齢・老化に伴う心身の変化や疾患について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。

⑦認知症の理解

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則が理解できる。

⑧障害の理解

障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している

⑨こころとからだのしくみと生活支援技術

介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。

尊厳を保持し、その人の自立及び自立を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識習得できるよう展開する。

⑩振り返り

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認をおこなうことともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

演習

「こころとからだのしくみと生活支援技術」の中の以下の項目に対しては「介護技術チェックリスト」を用いて、実技演習を実施する。

- ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑭総合生活支援技術演習

●備品・指導体制

⑥整容	ベッド・寝巻き・洗面器・タオル等
⑦移動・移乗	ベッド・車椅子・杖等
⑧食事	ベッド・エプロン・トロミ剤等
⑨入浴、清潔	ベッド・スポンジブラシ・ガーゼ（口腔用）・吸い飲み ガーグルベースン・足浴用バケツ・浴槽・滑止マット・シャワーチェアー
⑩排泄	ベッド・オムツ・リハパンツ等・男女用尿器・ポータブルトイレ、タオルケット
⑪睡眠	ベッド・寝具類・床頭台等
⑭総合生活	⑥から⑪より事例により必要備品使用

※指導体制は講師 1 名と補助講師 2 名で実施する。